「第4次砺波市地域福祉計画（案）」に係る
パブリックコメントの実施結果について

砺波市では、「第４次砺波市地域福祉計画」（令和８年度～令和１２年度）を策定し、市民の皆さんのご意見をいただくためパブリックコメントを実施いたしました。

この度、お寄せいただいたご意見に対する市の考え方を取りまとめましたので、お知らせいたします。なお、ご意見の内容を踏まえ，計画内容を一部修正しました。

１　実施期間

令和８年２月２日（月）から２月１６日（月）まで

２　ご意見をいただいた人数及び件数

１件（３意見）

３　実施結果の公表方法

市のホームページへの掲示

計画（案）のページ数	意見の概要	市の考え方
38ページ	・市の役割としての「ボランティア教育を推進」を「ボランティア活動の支援」にしてほしい。 ボランティアの三原則は、「自発性・無償性・社会性」ですが、市によるボランティア「教育、養成、依頼」となるとボランティア活動が「行政主導」と感じとられてしまうこともあるのではないかという点から修正を願うものです。 ボランティア活動は自発性が第一であり、その内容ややり方には決まったものはありません。そういった中で、「市が教育」となると、「行政のお手伝い」、「行政の考えに沿った活動」、ひいては「行政による強要」とも受けとらえかねません（市としてはそういったつもりはなく、ボランティア活動を広めたいとして「教育」としたとしても、「教育」という表記にしたために、そのようにうけとらえられるかもしれないということです）。	ご意見を計画に反映します。 市の役割として、 ②ボランティア教育を推進します。 ↓ ②福祉教育を通して、ボランティア活動の支援を推進します。 に変更します。

	そのためにボランティア活動の基本となる「自発性」が薄れ、活動の意義を変質させる可能性が出てしまうのではないかということが懸念されます。	
	ボランティア登録者数の記載の是非 そもそもボランティア活動とは「自発性」であるので、登録して行うものでもなく、また、登録者数で評価するものでもありません。登録者数で評価したら、活動を何か特別なものとしてしまっているように感じます。 近所の年配者への声掛けやお手伝い、自治会等の活動といったことは、以前は特にボランティアとして意識して行っていたわけでなく、ごく当たり前のように行われていました。「お互いさま」精神があったように思えます。それが現在は、「お互いさま」ということが薄くなり、広義でのボランティア活動としているように感じ残念な気持ちです。 確かに多くの方にボランティア活動に感心をもってもらい、活動が広がっていくためには、目標値を定めて進めていくことも一つとは思います。しかし、「登録」としてしまうことで、本来の「自発性」を変質させ、何か特別な活動としてとらえてしまっているように思えます。「ボランティア登録者数」ということを「計画の推進とその評価にあたっての数値化」とする必要があるのでしょうか。このページでは記載しないほうがよいのではと思います。	既に上位計画である「砺波市総合計画」や市社会福祉協議会の「砺波市地域福祉計画」に盛り込まれており、ボランティアの登録数は指標のひとつと考えております。
46 ページ	地域の役割として、40 ページに記載されている事項も一部記載する。 地域での交流の機会の場や地域行事・イベントは、地域における絆を強化するためだけでなく、それ以上に、いざ災害が発生したときの安否確認や避難活動には非常に重要な役割を果たすものと考えます。 そういったことから、40 ページ①にも記載されている事項を「日頃からの交流の機会や場を増やし、住民が地域でつながるきっかけづくりは、災害時の安否確認のし易さや住民同士の協力にも結び付くことから、積極的に進めていく」というような記載で追記できないでしょうか。 日頃の地域活動、行事は防犯・防災においても重要な役割を果たすものであることを再認識してもらうためにあえて追記を願うものです。	ご意見を計画に反映します。 地域の役割として、 ①災害時に、住民同士が助け合いできるよう、日頃から住民同士のつながりを大切にし、地域交流の機会を増やすよう取り組みます。 を追加します。